

地域医療を支える診療所

ペガサスは、地域の診療所と連携をとっています。診療所は、地域の皆さまにとって、医療を受ける「最初の窓口」。丁寧な診察による適切な診断・治療を行い、皆さまの健康管理を支援しています。

地域のかかりつけ医として さまざまな健康相談にお応えしています。

堺市東区の静かな住宅街にある岡原診療所。昭和60年2月に開院、平成5年に組織変更し、医療法人秀峰会になりました。岡原 猛院長は、地域のかかりつけ医として活躍するとともに、平成24年4月、堺市医師会の会長に就任し、広い視野で地域医療の明日を見つめていらっしゃいます。



当院は、内科、小児科、皮膚科を標榜する診療所です。小児科においては、乳幼児・小児の発熱、腹痛、下痢、嘔吐をはじめ、感染症や小児ぜん息などのアレルギー性疾患まで幅広く対応。また、アトピー性皮膚炎など、乳幼児・小児にみられる皮膚トラブルも数多く治療しています。このほか、成人の方の内科・皮膚科疾患、ご高齢の方の健康管理まで、さまざまな患者さまのかかりつけ医として、信頼される医療を提供できるよう日々努めています。かかりつけ医として大切なのは、初期診断で病気を見逃すことなく、患者さまの症状に応じて適切な専門医や医療機関へ橋渡しすること。普段から地域の医療機関と密接に連携をもち、患者さまのご希望に応じた病院を紹介できるような心がけています。こうした診療業務とともに、平成8年から堺市医師会の理事として、平成24年4月より会長として、堺市の地域医療のために活動しています。堺市は一つの医療圏に一つの医師会、5つの地域医療支援病院があり、病診連携も比較的スムーズにとれている恵まれた地域だと思います。今後の課題は、増え続ける高齢患者さまへの対応です。堺市医師会では在宅医療支援に力を入れています。さらに



行政、地域包括支援センターなどと協力して、認知症患者さまのサポートや医療と介護の連携強化に取り組んでいきたいと考えています。

岡原診療所

院長：岡原 猛
住所：大阪府堺市東区日置荘原寺町43-1
TEL：072-286-6110
診療科：内科、小児科、皮膚科

ペガサス医療体験デイ 就活バージョン



毎回好評の「ペガサス医療体験デイ 就活バージョン」。看護師、リハビリテーションスタッフ、薬剤師、介護職員をめざす学生の方や既卒の方を対象に、院内体験見学や就職についての説明会を開催します。ぜひ、お気軽にご参加ください。

開催日 12月14日(土)/1月11日(土)
受付時間 12:30～

看護師
求人サイト



看護師
動画サイト



詳しくはペガサスのホームページをご覧ください。 <http://pegasus.or.jp/>

私たちと一緒に働きましょう。 介護職員募集中! 随時受付しています。

ペガサスでは今、介護職員を募集中です。いつでもご連絡いただければ、ペガサスグループの施設見学などへご案内します。どうぞお気軽にお問い合わせください。

10月 ペガサスセミナー

レントゲンって怖いですか？

講師：臨床放射線部 岡田良仁
日時：10月31日(木) 午後2時～3時
場所：馬場記念病院 1階ロビー

10月 ペルセウス介護支援セミナー

お家で生活してみませんか？

講師：ケアマネジャー 森早苗
日時：10月23日(水) 午後3時～
場所：介護療養型老人保健施設ペルセウス 3階食堂

10月 ペガサスセミナー和泉

健康な胃をとりもどす ～ピロリ菌の検査と除菌のすすめ～

講師：医師 新田敦範
日時：10月24日(木) 午後2時～3時
場所：介護療養型老人保健施設エクウス

PEGASUS NEWS



ペガサスニュース

発行人／馬場武彦
発行／社会医療法人ペガサス
大阪府堺市西区浜寺船尾町東4-244
<http://www.pegasasu.or.jp/>
編集／ペガサス広報委員会 編集グループ
編集協力／HIPコーポレーション
発行／平成25年9月13日

Vol. 61

法人本部から地域の皆さまへ

米国の最新医療を学ぶ 「訪米視察ツアー」に、 2名の職員が参加しました。

馬場記念病院では、社会医療研究所所長岡田玲一郎氏が主催する「訪米視察ツアー」に毎年、職員を派遣し、米国の最新医療を学んでいます。参加する職員は、院内で募集し、小論文審査で決定されます。今年は、理学療法士と医療ソーシャルワーカーが1名ずつ選ばれ、ツアーに参加しました。

今回の視察ツアーは、6泊7日の日程で米国オハイオ州クリーブランド市に滞在。市内にある急性期病院をはじめ、



リハビリテーション施設、がん治療施設、ホスピス施設、高齢者施設など、さまざまな医療機関や施設を見学し、医療の機能分化について理解を深め、他職種によるチーム医療のあり方



などについて考察しました。

参加した一人、医療ソーシャルワーカーの丸山秀幸(医療福祉相談室・主任)は、今回の研修で得た“気づき”を次のように話しています。「米国では医療職は各分野の専門性が重視されていました。医療職の一例を挙げると、米国

では、入院直後から患者さまの退院支援を行うケースマネージャーが配置されています。当院では、私たち医療ソーシャルワーカーがケースマネージャーの役目も担っていますが、早期からの退院支援の重要性を改めて実感しました。」

もう一人の参加者、理学療法士の井上徳彦(リハビリテーション部・副主任)は、「米国では理学療法士の教育制度がかなり充実していました。日本ではそこまで体制が整っていないので、現場に入ってから卒後教育が重要になります。この研修で学んだことを、後輩たちの指導に活かしていきたいです」と言います。

丸山は研修全体を総括して、「今回の研修で、日米の医療体制の違いを学びましたが、同時に、私たちの取り組みが間違っていないことも確信できました。今後も自分の仕事に自信をもち、積極的に取り組んでいきます」と話しています。

二人とも研修で得た成果を各部署に持ち帰り、これまで以上に広い視野をもって、より良い医療サービスを提供していこうと意欲を燃やしています。



丸山秀幸



井上徳彦

■訪米視察ツアー 主なプログラム

6月24日	短期急性期ケア病院「メトロヘルス・システム」を視察。 大学病院グループ「セイドマンがんセンター」を視察。
6月25日	長期急性期ケア病院「リージェンシー病院」を視察。 短期急性期ケア病院「アクロン総合メディカルセンター」を視察。
6月26日	ホスピス施設「ウエスタンリザーブ ホスピス」を視察。 リハビリテーション施設「エドウィンジョー・リハビリセンター」を視察。
6月27日	大学病院「ノースイースト・オハイオ医科大学」を視察。 高齢者施設「ザ・ルネサンス」を視察。
6月28日	ボールドウィン・ワラス大学にて講義とディスカッション。 リハビリテーション施設「スナマリハビリテーション病院」を視察。

シリーズ 25 薬剤部

「顔の見える薬剤師」として、
患者さま、スタッフから
信頼されるよう努めています。医薬品に関わる医療安全を、
第一に取り組んでいます。

馬場記念病院の薬剤部では現在19名の薬剤師が勤務しています。このうち6名は、昨年度、薬学部を卒業して入職したフレッシュなメンバーたち。若くて活気のある雰囲気なかで、「患者さまのために何ができるか」を常にみんなで考え、活動しています。

薬剤師の業務は、入院患者さまの内服・外用薬の調剤業務や、注射薬の無菌的混合調製業務(注射薬・中心静脈栄養・化学療法剤)、医薬品情報管理業務など、多岐にわたります。これらの業務のなかで、私たちが第一に心がけているのが、医薬品に関わる医療安全を確保することです。

一般の方にはあまり知られていませんが、薬剤師は調剤する前に、必ず電子カルテを開いて、患者さまの症状や処方を確認しています。たとえば、肝臓、腎臓の弱った方は、そうでない方に比べて、薬の副作用が強く出ることがあります。そうしたことが起きないように、薬剤名・投与量、投与期間などを綿密に検分し、不明点があれば主治医に照会するなどして、薬学的な見地から医師をサポートしています。また、調剤後も、複数の目で内容をチェックするとともに、入院処方の一包化(1回分の薬を1つの袋に入れること)調剤を実施し、間違いなく服用していただけるよう配慮しています。

さらに、調剤室の薬だけでなく、手術室で使う麻酔薬剤や放射性医薬品など、院内の医薬品のすべてに目

を配り、「薬あるところに薬剤師あり」という気持ちで、医薬品の安全管理を行っています。

病棟薬剤師が
入院患者さまに、
服薬指導を行っています。

従来、薬剤師は調剤室に勤務し、患者さまとふれあう機会は限られていました。しかし、昨年度から、病棟ごとに2～3名の担当薬剤師を配置。薬剤師が患者さまのベッドサイドにおもむき、服用されている薬の説明を行ったり、患者さまから薬の相談を受けています。患者さまが入院される際は、今までのんでいた薬を持参していただき、薬剤名・規格・用法・用量を確認し、薬の相互作用がないかなどをチェックしています。

また、病棟薬剤師は病棟カンファレンスや回診にも参加し、医師、看護師に、医薬品の情報を提供したり、服薬計画を提案しています。さらに、NST(栄養サポート)チーム、ICT(感染制御)チームといったチーム医療にも積極的に参加し、薬物療法の安全性と有効性の確保に責任をもって取り組んでいます。

今後はマンパワーを強化し、こうした病棟業務をさらに充実させていく計画です。入院患者さまの情報を速やかに収集することで、服薬指導は



薬剤部 部長 小原 延章

もちろん、処方提案においても、医師から信頼される薬剤師をめざしていきます。また、検査データなどをいち早く確認し、副作用の早期発見に努めるとともに、医薬品の適正使用を実践していきたいと考えています。

専門薬剤師の育成とともに、
薬学実習生の指導にも
力を注いでいます。

近年、チーム医療の普及にともない、薬剤師にも薬の専門家としての高い専門能力が要求されるようになってきました。当院でも専門性の強化を目標に掲げており、すでに2名の栄養サポート(NST)専門薬剤師を育成。将来的には、感染制御、がん薬物療法など、各分野の薬物療法に関して高度な知識と技能をもった専門薬剤師を育てていく考えです。

また、薬学生の教育にも携わるために、私自身も認定実務実習指導薬剤師の資格を取得し、薬学生の長期実務実習の受け入れ施設の承認を得て、今年度より、実習指導をしています。薬剤師をめざす学生の教育を支援することは、当院だけでなく、地域医療に貢献する人材を育てることに繋がります。この地域で活躍する優秀な薬剤師を一人でも多く育てるために、今後も力を注いでいきたいと考えています。

薬剤部の主な取り組み

- 入院処方の一包化調剤
- 薬品管理業務
- 救急患者対応
- 電子カルテのチェックと処方提案
- 病棟薬剤業務
- チーム医療への参画(NSTチーム・ICTチーム)
- 治験管理業務
- 薬学実習生の教育・指導
- 注射薬無菌的混合調製(注射薬・中心静脈栄養・化学療法剤)
- 医薬品情報管理(医薬品の最新情報を掲載した月刊「DIニュース」の発行)

TOPICS
1

継続リハビリテーション

患者さまが日常生活を取り戻すまで、
継続してサポートしていきます。



リハビリテーションのゴールは「おうちに帰る」ことではなく、患者さまが「希望の生活を取り戻す」ことにあります。たとえば、「料理ができるようになりたい」「職場に復帰したい」など、患者さまの具体的な目標を支援するために、ペガサスでは退院から在宅へ、そして社会復帰へと、つぎ目のないサポート体制をご用意しています。

退院後にご利用いただけるペガサスのリハビリテーションサービスは、訪問リハビリテーション、訪問看護、デイクア(通所リハビリテーション)、デイサービス、訪問介護があります。なかでもデイクアでは、外来リハビリテーションと同様のサービスをお受けいただけます。ペガサスでは、患者さまが退院される前に、ご本人とご家族の希望を専門スタッフがしっかりとつかみ、ご自宅の生活環境を確かめた上で、これらのサービスを有効に組み合わせた継続リハビリテーションを提案し、きめ細かくサポートしています。

●現在、サービス内容の詳しいパンフレットを作成中です。

TOPICS
3

ペガサスロイヤルリゾート石津

優れたサービス付き高齢者住宅として
読売テレビの取材を受けました。



高齢者の新しい住宅として注目される、サービス付き高齢者住宅。その最新情報を伝える報道番組で、「ペガサスロイヤルリゾート石津」が紹介されました。放映されたのは6月24日、読売テレビの報道情報番組「かんさい情報ネット ten!」のコーナーです。

この番組では、サービス付き高齢者住宅にはさまざまなタイプがあり、ペガサスロイヤルリゾート石津は、専従の医師が入居者宅を訪れ診察を行うこと、介護保険サービスも利用できることなどの特長が紹介されました。

好評の「ペガサスロイヤルリゾート石津」に続いて、平成26年2月には、馬場記念病院のすぐ近くに「ペガサスロイヤルリゾート」がオープンします。入居をお考えの方は、ぜひお気軽にお問い合わせください。

<お問い合わせ先>

お客さま相談室・予約受付 070-6924-2990

受付時間 9時～18時

TOPICS
2

外科・新副部長着任

馬場記念病院・外科では、
新任の副部長を迎えました。

外科副部長 野田英児
山梨医科大学(現山梨大学)医学部卒業、医学博士。大阪市立大学非常勤講師。

馬場記念病院の外科では、平成25年4月1日付で、野田英児医師が副部長として就任しました。野田医師は、大阪市立大学腫瘍外科(第一外科)に入局後、平成19年から同大学の病院講師、平成22年から大学講師として、診療はもとより医師の育成にも携わってきました。

野田医師の専門分野は、内視鏡外科です。日本内視鏡外科学会の技術認定を取得しており、胃がんや大腸がんの腹腔鏡手術において、多くの治療実績を重ねてきました。同時に、大腸肛門病専門医として、内痔核をきらずに治すジオン硬化療法を得意とするほか、クローン病、潰瘍性大腸炎といった炎症性大腸疾患についても豊富な経験を積んでいます。外科では、こうした野田医師の専門能力を存分に活かし、より高度な専門治療を行っています。

TOPICS
4

ペルセウス 食品衛生表彰

介護療養型老人保健施設「ペルセウス」が、
食品衛生優秀施設として表彰されました。



堺市では市内の食品衛生・環境衛生関係施設を食品衛生監視員または環境衛生監視員が調査し、衛生状態の優秀な施設を決定し、毎年、優秀施設標識を交付しています。平成25年度に標識を交付したのは310施設で、ペガサスの介護療養型老人保健施設「ペルセウス」がその一つに選ばれ、7月1日に表彰されました。

ペルセウスの調理室では、床を常に乾いた状態に保つドライ方式を採用するとともに、清潔・不潔エリアの完全分離を実践するなど衛生的な環境を整備。さらに、食中毒を防ぐために調理中の温度なども綿密に管理しています。栄養部の主任・松井理恵、副主任・趙玉蓮は、「やるべきことをやってきたことが評価されて、うれしく思います。これからも衛生管理を徹底し、おいしい食事を用意していきたい」と、今後の抱負を語りました。